

※2025年3月のRESAS新システムへの移行に伴い、一部のマップ・メニューが掲載内容と異なる場合があります。

学校区分	学年	RESASで分析、地方創生プロジェクト			東京都立清瀬高等学校
高校	2				
教科名	科目名	単元名	授業時間目安		活用したRESASデータ（マップ名等を記入）
公民	公共		8	時間	観光マップ・人口マップ・産業構造マップ・地域経済循環マップ 企業活動マップ・消費マップなど

目的やねらい、 背景や経緯

2022年4月、高等学校公民科に「公共」が新設され、学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現が掲げられている。しかし、実際の授業では、従来の討論型・発表型授業は手法が目的化し、社会課題をジブンゴトとして捉え、データに基づく分析・考察を深める学びには至っていなかったという課題に対する認識があった。

また、コロナ禍でのオンライン授業導入を契機に、ICT活用の可能性は示されたものの、端末管理や校内ネットワーク、教員・生徒のスキル習熟度には大きなばらつきがあり、うまく活用できていない側面が顕著にみられた。

こうした状況下において、文部科学省のGIGAスクール構想により1人1台端末と高速ネットワークが整備され、校内のICT基盤が整備された。これを機に、「単なるデジタル化」から一歩進んだ、「実証的データ分析を通じて思考を深める授業設計」が急務と考え、教科「公共」におけるRESASを活用した学習プログラムの構築。実践した。

取組内容

概要

本実践は、高校2学年の教科「公共」で実施する。単元要素を複合的に組み合わせた学習プログラムとして、デジタルデバイスを積極的に活用する。

「地方創生は社会全体で取り組む」をコンセプトに、RESASのデータ分析をもとに、東京都の高校生が「地方創生プロジェクト（アイデア）」の作成にグループで取り組み、政策提言のプレゼンテーションを行う。

政策提言プレゼンテーションは、提出されたPowerPoint資料を使い、6分以上7分以内で実施。特定の生徒だけが発表することなく、必ず、グループメンバー全員が発言することとしている。

授業の構成・カリキュラム等

1グループを4～6名とし、各クラス10グループで取り組んだ。それぞれのグループが、東京都を除く46道府県の中から対象とする1つの自治体（市町村レベル）を複数の候補地から検討した上で設定したうえで、RESASを活用し、データを読み解きながら地域の問題点や課題を分析する。

それらの課題点をどのように解決、または影響を軽減させられるかといったアイデアをグループで考察し、政策提言としてまとめる。

政策提言アイデアを創出するベースとなるのは、生徒が自治体の特徴や強みを集めたイメージマップである。このイメージマップは、地域の基本情報や特色をはじめ、文化や産業、こぼれ話など多角的な視点から生徒が書き込む。このイメージマップをもとに、RESASのデータと関連させた分析や考察を深め、プロジェクト（アイデア）の方向性を具体化していく。

活動の様子



成果 （発見・気づき） 及び課題

生徒からは、「地方創生というと地方の学生や団体がやっていることで、都内に住んでいる私たちには縁遠い話だったが、私たちにもできることがあると思った。」「アイデアは地方の人でなくても、都内に住んでいる私たちが提案してもいいのでは？」などの声が聞かれた。今後の課題は、教科としての授業で行っているため、現地には直接行くことはできないが、海外の環境や社会問題などを考える授業と同様に、どれだけ生徒に「ジブンゴト」として捉えさせることができるのかを指導者として追及していきたいと考える。